

平成25年度「市長と語りあう会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
4月11日（木）	高津地区振興センター	19:00～	39	10	49

○市側出席者

市長、副市長、総務部長、秘書広報室長、広報広聴係長

2 市長と語る会の概要

○開 会 （秘書広報室長）

出席者紹介

○あいさつ 山本市長

施政方針について

- ① 人口拡大への挑戦
- ② 財源の効率的配分
- ③ ネットワークの構築と活用による産業の活性化

今取組まなくてはならない課題

① 学校給食センターについて

現在ある3カ所の施設をそれぞれ、高津地区（主に小学校2800食）、民間委託（主に中学校1500食）、美都地区（主に美都周辺・道川200食）の複数分散設置とする

② 中西 クラインガルテンについて

この事業は、農業の活性化と都会地の人に来てもらうことでの交流人口拡大を目的とする。採算性の厳しさという意見がある中で、水質検査の結果、飲用としての基準が下回った為、上水道の整備、又は有害物質を取り除く浄化施設が必要になった。この費用が約1億円以上かかるので予定していた土地以外も検討し、近隣地域で、住民の方々の意欲ある場所を小規模ずつ広げていくことも考えていきたい。

③ 医療の問題について

人口5万人のまちとしては、決して劣ってはいないと考えるが、産科の体制と総合病院に脳神経外科がないことは住民の皆さんにとって、不安材料だと思う。産科については、島根大学医学部の医師に定期的に来ていただき、サポートしてもらっている。特に高齢者の方が心配に感じている脳神経外科については、通常3人の医師が必要な為、原則として人口が30万人以上必要になる。このことから、島根県には、県立中央病院と浜田医療センターの2カ所にあるので、やむを得ない状況と考える。出雲や浜田に1分でも早く搬送出来るように、道路やドクターヘリの整備を行っていきたい。

④ 防災と危機管理について

津波ハザードマップを全戸配布。標高表示については、平成 24 年度は避難場所に表示。平成 25 年度は、10 メートル以下の市道 100 ヲ所について表示予定。

北朝鮮のミサイル発射問題については、危機管理対策課が情報を迅速に収集し対応出来るように、担当職員が朝 6 時 30 分から登庁し、夕方は自宅待機をしている。

⑤ 空港と道路について

東京便の 2 便化を全日空に要望。東京からの出発が利用しやすい時間であること、11 月に岩国錦帯橋空港が開港したことによる観光ツアーなどの要因から、東京からの利用客は増えており、去年は 6 万 6 千人になった。一方で、益田からのビジネス上の利用としては不便な時間帯になっている。このことから、東京 2 便化は重要なことと考える。

大阪便の定期運行についても年間を通じて要望していく。

道路について。山陰道三隅益田間の事業化が決定したが、調査、測量など概ね事業化決定から 10 年かかる（2022 年）とされているので、市長会では、2020 年までの完成を要望している。又、萩益田間の早期事業化も進めていく。

⑥ 都市交流について

首都圏（川崎市など）、大阪圏（高槻市・豊中市など）との交流を増やしていきたい。今月 19 日には、川崎市の阿部市長が市民学習センターで講演を行う。これからさらにお付き合いを深めていきたい。高槻市とは、近いうちに防災協定を結ぶことになっている。都市交流は、空港利用促進にもつながると考える。

⑦ 企業誘致について

今は追い風が吹いている。県の方からも、2、3 の案件をいただいているので、具体的な実現に向かっていきたいと思う。

○意見交換

別紙のとおり

○閉会（秘書広報室長）

あいさつ 山本市長

平成25年度「市長と語りあう会」

〔会場 高津地区振興センター〕 開催日時：平成25年4月11日（木）19:00～20:40

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 6月に市全体で溝掃除が行われる。市道の両側の溝が深い、溝蓋が重かったり、高齢であったりして、自分達で行うことができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターに一括してたのめないか。 ・溝蓋をはぐり易くして欲しい。（グレーチング化） ・市議会議員の口利きで早く対応するということはないか。 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の予算が必要となり、対応は困難である。 ・これも、多くの自治会等から要望がある。予算が必要となることから優先順位の高い地域から対応したい。 ・口利きで早く対応するということはない。たまたま、その順番の時期に市議員が来られて話しを聞いたということはあるかもしれない。
<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅構想について魅力的な夢のある施設を造って欲しいと思うが。 ・クライנגアルテンについては、水道を引くだけで1億かかるとのことで現実的ではない。匹見や美都など自然あふれる地域に造ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅は道路の案内の他に、地域の特色を出すこと、農産物や農産物の加工品を販売の場としての機能を持たせる必要がある。整備に当たっては国、県の補助事業を活用することが大切で、事業の募集のタイミングなどもあり、いつでも手を挙げることができるように準備しておかなければならない。 ・クライングアルテンについては、開設後に採算が取れるかどうか、不採算になれば公費を補てんしなければならない。折角施設を整備しても人が来なければ交流人口の増大に結びつかないので、ある程度人の入りが見込める場所、地域の住民の方のご協力がいただける場所を精査して、計画を進めていかなければならないと思う。
<p>③ 東京や川崎市などの首都圏や高槻市などの関西地域でのアンテナショップの開設を検討してはいかがか。</p>	<p>本年度は都市間交流を進めていく。高槻市では特産品センターのような場があり、福井県の若狭町の物品を常時販売している。ここへ益田市の物品も置いていただき特産品フェアなどで周知を図り、益田市のファンをつくり、拡大していきたい。また、川崎市においても川崎駅の地下にあるアゼリアというところがあり、石見神楽のPRや物販を常時開設できるように進めていきたい。</p>
<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌手の水仙公園までの道幅が狭く、ずいぶん待たされ、途中であきらめた。せつかくの観光地も無駄になるので早急な整備が必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・益田市に観光資源は多くあると思っている。しかしながら、点でしかなく、線で結ばれていない。雪舟の記念館も大型の観光バスが入れない状況であるが、住宅街で道路の拡幅が困難である。非常にもったいない状況である。今後はこうした観光コースなども視野に入れながら都市計画を考える必要があると思っている。

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑤ ・児童相談所の跡地の利用計画について</p>	<p>・児童相談所の跡地は県の所有である。また、県所有の土地は益田工業高校などもあり、県が跡地の利用を考えられることになるが、利便性のよい国道沿いであつたり、まとまった広い土地であつたりと条件の良い土地であるので市としても利用する計画を検討し、県に対して提案することも必要であると思う。</p>
<p>⑥ ・浜の四自治会で集会所の建設について要望し、たがその後の進捗具合を聞きたい。 4つの自治会で、四年間で900万円を積み立て、補助事業で1千5百万円を受けて市の土地を借りて建設する計画である。土地を借りることができるのかも合わせて聞きたい。</p> <p>・連理松の跡地の神楽殿で神楽を見に来られた観光客の方がトイレを使用しようとしたところ、照明もなく汚れていたために、途中で帰られたことがあった。高津地区には公衆用トイレが少ないため、子どもの通学途中など困っている。公衆用トイレの建設をお願いしたい。</p>	<p>・市の各部署間の連絡がうまくいっていなかったようである。建設の資金を集められて建設の計画を立てられていることから実現できるよう努力していきたい。</p> <p>・財政状況からどんどん整備できる状況にはないが必要性の高い所から整備ができるよう努力したい。</p>
<p>⑦ クラインガルテン事業について計画の再検討が必要ではないか。</p>	<p>益田市には未来農業都市構想という計画がありその中での事業として計画された。今後は見直すべき部分も出てくると思っており、幅広い視野でどんなことができるのかを考え構想を練り直すことも必要。さらには吉賀、津和野町とも十分議論し検討していきたい。</p>
<p>⑧ 川崎市との交流について進められているが、体育協会の会長が益田市の出身で、間を取り持たれてどんどん進められている。こうした中で川崎市は山の家を全国に3カ所所有している。益田市には海の家を建設して川崎市民に利用してもらおうことができるように働きかけてほしい。</p>	<p>川崎市とは子どもさんのスポーツ交流を中心に交流を進めており、更なる交流が出来ないか働きかけを行なっている。しかしながら、山の家について川崎市は費用対効果により縮小の方向であるとのこと。ただし、こういった提案ができるタイミングを見ながら実現できるようにしていきたい。</p>
<p>⑨ 川崎市に防災の観点から避難場所として益田市を活用してもらってはどうか。</p>	<p>川崎市は政令指定都市であり防災の協定はその都市間で結んでおられるようである。また、その政令指定都市の会の会長を川崎市長が務めておられことから、その他の都市との協定は困難であるとのこと。協定を締結していなくても今後、様々な交流の中でこうした防災面での協力が希望されることがあれば対応していきたい。</p>

要 望 事 項 等	回 答
<p>⑩ この高津地区は海が近く砂浜も多いが、地震などが起きた場合、液状化現象という状況は起こるのか。</p> <p>⑪ 自主防災組織の立ち上げを進めておられるが、大きな災害が起こったところで、どのような対応をすればよいかは素人の判断では相当難しい。さらには責任論になればなおさら取組むことに躊躇する。</p>	<p>大きな地震が浜田市で起きた折に畳が浦のような地形ができたところもある。益田でも液状化が起こる可能性もあると思うが、今後の課題として研究したい。</p> <p>ご指摘のとおり難しい問題であるが、基本的には避難するかどうかは個人個人の判断である。自治会長さん方の活動は、避難のためのきっかけ、判断材料の一つになればよいのではないかと思う。今後どのような活動がよいのか、さらに研究をしていきたいと思う。</p>

